

1. 研究課題名：小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧種の域内域外統合的保全手法の開発



2. 研究代表者氏名及び所属：
川上 和人（独立行政法人森林総合研究所）

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

小笠原諸島は、その生態系の価値の高さから、世界自然遺産に登録されました。ただし、外来種が固有種の生息に影響を与えています。最近では、外来種駆除事業が進み、生態系回復も見られていますが、まだ多くの種が絶滅の危機にあり、緊急の保全策が必要です。

この研究では、絶滅危惧種の生息環境を維持するため、適切な植栽手法を開発します。また、特に危機的状況にある植物、昆虫、陸産貝類、海鳥を対象として、保全に必要な生態を解明し、環境復元等による域内保全技術や、人工飼育を含む域外保全と野外への導入手法の開発などを行います。

この成果を行政機関による保全事業に適用することで、科学的な知見に基づく保全策を推進することができます。

5. 研究項目及び実施体制

- ①生物進化に配慮したハビタットの持続的管理手法の開発（森林総合研究所）
- ②絶滅危惧植物の繁殖成功に配慮した域内保全手法の開発（首都大学東京）
- ③絶滅危惧昆虫の域内・域外保全および再導入手法の開発（生命の星・地球博物館）
- ④絶滅危惧陸産貝類の域内・域外保全および再導入手法の開発（東北大学）
- ⑤絶滅危惧海鳥の域内保全手法の開発と飼育技術確立のための食性の解明（小笠原自然文化研究所）

6. 研究のイメージ

